

頭頸部癌肺転移切除例の予後・予後因子に関する研究

1. 研究の対象

1992年7月から2013年12月にかけて、当院にて転移性肺腫瘍（がんの肺転移）を手術した患者さんのうち、頭頸部がんが原発（元のがん）であった患者さんを対象としております。

2. 研究目的・方法

頭頸部がんを原発とする転移性肺腫瘍に対して手術をうけた方々のデータを用いて、長期的な成績、また長期生存に影響を与える危険因子を明らかにすることを目的としています。

頭頸部がんの転移先は肺が最も多いとされ、肺転移の手術後の成績はこれまでも報告がされています。しかし、手術の行える頭頸部がんの肺転移は数が少なく、これまでの研究は規模の小さいものが大半です。

当院では、肺転移に対して多くの手術が行われていますが、頭頸部がんを原発とするものに対しては、検討がされていません。

今回の研究では、転移性肺腫瘍に対して手術をうけた方々のデータを用いて、危険因子と長期的な成績を明らかにすることを目的としています。この結果から手術後の成績が明らかとなり、本研究が今後の手術適応に大きく貢献すると考えられます。

研究実施期間：1年6カ月間

対象となった患者さんの診療録から、その臨床的特徴に関する必要な情報を収集します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、喫煙歴、原発臓器、原発巣の治療内容、病理所見、臨床経過、手術所見、予後など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません

ので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 沖智成

TEL 04-7133-1111

研究責任者：

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 坪井正博